

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072000336		
法人名	医療法人 幾嶋医院		
事業所名	グループホーム ゆとり庵		
所在地 (電話番号)	福岡県柳川市田脇760-1 (電話) 0944-75-6002		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月11日	評価確定日	平成19年12月27日

【情報提供票より】(19年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 4. 2

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造瓦葺 造り	
	2階建ての	1階 ~ 1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	幾嶋医院 大城医院 甲斐病院 龍歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者はグループホームを開設したいという思いから、イギリスで1年間、実際にグループホームで働き、まずはデイサービスを開設し平成15年にグループホームの開設に至る。同敷地内に診療所があり、来年春には小規模多機能施設の開設も予定されている。“家で出来ることはホームでも出来る”との考えで、希望者には晩酌してもらったり、内職にチャレンジし、おやつ代に当てるなどの試みも行われている。“人に優しい地域作り”をテーマに地域の方に成年後見制度の説明や、高齢者擬似体験をしていただいたり、認知症の方との接し方についての寸劇を行うなど、地域における認知症ケアの推進に積極的に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①ふれあい祭りの開催や、地域運営推進会議においては婦人会などに呼びかけて、高齢者擬似体験会を催すなど、地域との関わりに向け広報や啓発を行った。②点検表の作成と事故報告書の活用方法の検討と今後に生かす取り組みの実施。③行政との連携強化等の取り組みを行った。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホームの中にいると気付かないことや、マンネリ化していることがあり、外部の方に見てもらい評価してもらうことで質の改善につながることを職員に説明し、担当者に自己評価表を記入してもらったあと改善の必要などを職員全員で話し合った。前回の評価に対しても職員と話し合い、改善計画書を作成し改善に向け取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 区長・公民館館長・婦人会会長・民生委員・家族会の代表・市の担当者・福祉事務所の職員等に会議出席を依頼し、2ヶ月に1回開催している。会議の中で“人に優しい地域作り”をテーマに成年後見制度の説明や、高齢者擬似体験を参加者に行ってもらったり、認知症の方との接し方について寸劇を行うなどの取り組みを行っている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 月1回、家族の訪問時に日頃の暮らしぶりや健康状態等、個々に合わせた報告がされており、金銭の収支報告も行っている。遠方で面会の少ない家族には電話で状況を報告している。ホームだよりに新人職員等の紹介も載せ、面会時に紹介したりしている。家族から不安に思っていることや苦情など聞き、相談に乗ったり改善に向けた検討も行われている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に参加し回覧板をまわしたり、敬老会・運動会・地域の清掃活動にも参加している。散歩中、地域の方と挨拶を交わしたり、ホームの庭で日光浴をしていると地域の方から声かけていただく関係にある。野菜の作り方を近所の方に尋ねたり、ホームで漬けた漬物をバザーに出したり、近所の障害者施設からクッキーの販売に見えたりと、地域の方との交流が盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時、職員全員で話し合い、“利用者の思いと人としての思い”を考慮して、地域の中で当たり前の生活を当たり前出来るよう「あるがままに自分らしく生き、人として愛され、人生を全うしたい」を理念に掲げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、人として1日1日過ごしていく上で地域との関わりなしには生きていけないこと等を、毎日のミーティングや月1回の会議で職員に伝えている。職員はお手伝いしてもらったら感謝したり、手を取り合っって喜んだり、愛情を持って接するなど理念の実践に向け日々取り組んでいる。理念を利用者に墨で書いていただきリビングに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に参加し回覧板をまわしたり、敬老会・運動会・地域の清掃活動にも参加している。散歩中地域の方と挨拶を交わしたり、ホームの庭で日光浴していると地域の方から声かけしていただくこともある。野菜の作り方を近所の人に尋ねたり、ホームで漬けた漬物をバザーに出したり、近所の障害者施設からクッキーの販売に来られたりと地域の方との交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はホームの中に入ると気付かないことや、マンネリ化していることがあり、外部の方に見てもらい評価してもらうことで質の改善につながることを職員に説明し、担当者に自己評価表を記入してもらい、改善の必要などを全員で話しあった。前回の評価に対しても職員と話し合い、改善計画書を作成し改善に取り組んでいる。時間の関係で職員全員で自己評価表を充分検討して記入するまでには至っていない。	○	自己評価表を職員全員で検討する過程が質の改善につながることから、自己評価表をいつでも見れ、記入できる方法を取ることでさらに多くの意見を取り入れられると管理者も考えておられ今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は、運営推進会議のあり方等について市の担当者に相談し、区長・公民館館長・婦人会会長・民生委員・家族会の代表・老人クラブの方に会議出席を依頼し、2ヶ月に1回、開催している。会議の中で“人に優しい地域作りをテーマ”に高齢者擬似体験や後見制度の説明、認知症の方との接し方についての寸劇を行うなど、地域の方に対しても貢献できるような内容を取り入れた会議となっている。管理者はホームの取り組みや苦労していることを参加者にもっと理解して頂きたいと考えている。	○	ホームの取り組みや苦労していることをもっと理解していただくために、自己評価表を通して参加者に理解していただく取り組みを行って行きたいとの思いから、会議の場で外部評価の結果を公表することでサービス向上に活かせる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に1ヶ月に1回は、市の担当者にホームで困っていることなど窓口を訪問して相談したり、情報のやり取りも行っている。地域で徘徊ネットワークを作ってはどうかと提案も行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が社会福祉士と言うこともあり制度に詳しく、家裁よりパンフレットを頂き職員研修を行っている。年2回の家族会の集まりのときにも制度についての説明を行っている。利用者で必要な方には実際に制度を活用してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、家族がホームに見えるため、利用者の暮らしぶりや健康状態等、個々に合わせた内容を口頭でお伝えしたり、金銭の収支を説明し確認の印鑑を頂いている。遠方で面会の少ない家族には電話でお伝えしている。“こぼら一と通信”(ホームだより)に新人職員等の紹介を載せたり面会時に紹介したりしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、家族が支払いに見えたときに管理者が意見や不満、苦情はないか声をかけている。職員を通して意見を頂くこともあり職員も声かけている。誤解等から不満を言われる家族にも、しっかり話しを聞き対応するようにしている。家族から意見が聞かれたら職員で検討し運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である管理者は、職員の離職を最小限に抑えるために、デスタッフや診療所のナースの応援を得て、休みの希望を出来るだけ聞いている。管理者は職員の相談に乗り、個別に勤務時間の調整も行っている。2ユニット間の移動は極力避けているが、移動があってもいいように日頃からすべての利用者に関わるようなケアが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、65歳以上の採用も行っている。職員が得意なことを活かせるよう和裁を教えている職員にはプレゼント品や飾り物を作ってもらったり、得意なお花作りをしてもらったり、漬物を漬けてバザーで販売するなど力を発揮してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、日々のケアの中で人として生きるとはどうか、人の権利とはなにかを職員に話している。外部の人権研修に職員を参加させ、ホーム内で伝達研修も行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、個人の段階に応じた研修受講や資格取得について研修費用の補助等行っている。海外研修も受けたらという職員がいたら費用を補助すると説明している。グループホーム協議会の新人研修にも参加させるなどの取り組みを行っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会に参加し交流を図ったり、新規開設のグループホームの職員の研修を受け入れたりしている。他施設との相互訪問も行っているが、管理者は十分な交流が出来ているとは思っていない。	○	質の向上に向けて近隣のグループホームが集まって勉強会をするなどの取り組みをしていきたいとの思いがあられ、今後の取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が、入居の相談を受けた後、自宅を訪問している。ホームでの生活に馴染めるよう、ご利用者の居室を見せていただき、自宅から持参していただく家具等の話し合いを家族と行っている。ホームの生活に徐々に馴染めるよう職員が声かけを繰り返し、コミュニケーションをとる努力を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おしぼり巻きやお盆拭き、茶碗洗いなど家事をご利用者と一緒に行っている。夜勤明けに労いの言葉を掛けてもらったり、長期にお休みした後にご利用者から心配していたと声を掛けてもらうなど、お互いに思いやり支えあう関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者と家族からどのようにホームで暮らしていきたいか、希望や意向を聞き取っている。入居後も興味を示されるものはなにか、観察を行っている。言葉で表現できない方には表情や行動から、本人の気持ちを汲み取る努力を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員全員で話し合っ計画を作成している。家族と面接して意向を伺うが、お任せしますといわれる家族が多い。課題・目標には地域で暮らすという視点が盛り込まれ、細かなサービス内容も記載されているが、行っているケアのすべてがプランに上がっていない。短期・長期目標がモニタリングしにくい大括りなものになっている。	○	実際に行われているケアを計画にあげ、誰が見てもどのようなケアが行われているかがわかるプランであることが必要と思われる。短期・長期目標を設定した期間で達成できるような内容にすることで、モニタリングも行いやすく、プランに添ったケアとなり、家族からの意見の聴取も容易になると思われ、今後の取り組みに期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月に設定されているが、毎月行われるケース会議で全員のプラン見直しがされており、家族の訪問時、話し合いも行われ必要時は計画の変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いきつけの美容院への送迎・家族の墓参り・通院の介助・馴染のお店への外出介助など柔軟な対応を行っている。併設のデイを利用している方の家族のお迎えが遅れるときは、お迎えがあるまでホームで過ごしていただくなどの臨機応変な対応も行っている。また問題があって困っているデイ利用者を、一次ホームで保護するなどの対応もされている。	○	事業所の多機能性を活かした取り組みが行われているが、利用者・家族・職員での1泊旅行を行いたいとの思いがあられ実現に向けた取り組みに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院から入居にいたる方が多く、協力医療機関である隣接の診療所の医師が主治医になり、週1回の往診が行われ、歩ける方は診療所まで職員同伴で行き診察を受けている。専門病院で以前から見てもらっている方は現在も継続して受診されており、職員が付き添い、病院のソーシャルワーカーや医師と連携をとり家族に報告している。週1回診療所で行われる朝のミーティングに参加して、報告等を行っている。月1回の合同会議には診療所・薬局の職員も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から家族・ご利用者との話し合いを行っている。今年に入り4名の看取りを行った。家族・医師と話し合い全員で方針を共有した。家族が交代で付き添い、医師に毎日往診して頂き夜間も対応してもらった。最後まで看取れたことで職員の満足・自信にもつながった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者をお呼びするときは基本的には姓でお呼びするが、同姓の方や姓でお呼びしても反応されない方には名前や馴染の呼び方で対応している。日々のケアの中でもプライバシーを損ねないようにさりげなく声かけしたり、耳元で優しく声かけするようにしている。個人情報の取り扱いに充分注意して第三者からの電話での問い合わせには答えない、外でご利用者のことを話さない、ご利用者の前で申し送りしないなど気をつけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・起床時間など1人ひとりのペースに合わせて対応している。日光浴や散歩・買い物など希望を聞き、気分が乗らないときには無理強いはいしていない。その日の気分に合わせ好きな絵を描くなど自由に過ごしていただいているが、部屋に閉じこもりがちの方には体調をみながら声かけもしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みを把握して、職員が話し合っメニューを決めマジックでメニューを書き掲示している。材料の皮むきや調理・下膳・茶碗洗い・お盆拭きなど一緒に行い、職員も一緒に食事している。食事中はテレビや音楽は消し会話を楽しんでいるが、日曜日などご利用者の好きな番組がある時はテレビをつけて一緒に楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を行っているが、2ユニットで交互に入浴を行っているため、希望があれば毎日の入浴も可能である。褥創のある方やあせもなど皮膚疾患のある方は毎日入ってもらっている。以前、男性職員がいたとき同姓の介助を好まれる方には女性職員が交代して対応をしたり、入浴を拒否される方には時間を置いて対応したり、日を改めて入浴してもらったりしている。楽しみの一つとして隣接のデイの大きなお風呂を利用するなどの対応も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の得意なことを把握し家事・草取り・畑仕事など楽しんでできるような役割を担ってもらっている。趣味の手芸や絵を描いてもらったり、ご利用者が出来そうなことを職員が気付き、物品を準備することもある。ホームに閉じこもらないよう気晴らしの支援として、買い物やドライブなどの支援も行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調の関係で以前より外出回数が少なくなっているが、少しでも外気に触れていただくよう庭の芝生の上にベンチを置き、気分転換も兼ねてみんなで昼食を摂ったり、日光浴を行ったりしている。車でドライブに出かけ他市のお祭りに参加したり、公園に行ったり自宅の近くを通り、よく行っていたお店まで出かけるなどの支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方6時から朝7時までは防犯上鍵をかけるが日中はかけておらず、職員が見守りしたり声を掛け合っているため鍵を掛けないケアが継続できている。同敷地内の診療所や薬局の職員による見守りも行われている。台所兼リビングからは玄関が見えない作りになっていたため一部ガラス窓にして見守りしやすいよう改造も行われた。玄関にはチャイムも設置されている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動火災通報装置・煙感知器・自動発電機が設置されている。ご利用者・職員・運営推進会議のメンバーも参加しての非難訓練が行われ問題点が見えたことで次回の課題につながった。管理者が地区の集まりや婦人会の集まりに行き、災害時の協力依頼も行っている。現在防護頭巾作成や非常用の食料・備品等の準備に向けた検討が行われている。	○	現在検討が行われている非常用の防護頭巾の作成や非常食・備品等の準備の実現とともに、訓練により見えてきた課題の解決にむけた取り組みに期待したい。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により年2回、栄養バランスのチェック・指導を受けている。毎月1回は体重を測定し医師による血液検査のデータチェックも行われ、総蛋白が低下したら栄養補助食品を使用している。食事・水分量を把握し、摂取量が少ない場合は好みのものを聞いて提供したり、嫌いなおかずの時には代替品を用意したりしている。誤嚥防止のため、きざみ食にはせず圧力をかけてやわらかくするなど工夫が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭で使用されているような家具が置かれ、季節の花や手作りの作品がいたるところに飾られている。リビングの中に布団が敷ける程度の畳のスペースがあり、いつでも休憩ができるようになっている。別のユニットではソファが数か所置かれ、思い思いお気に入りの場所で過ごされている。ご利用者にとって不快な音もなく光の強さにも気づばりがされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごしていただけるよう、本人や家族と相談して自宅で使用していた家具や使い慣れた物を持ってきていただいている。家族の写真や絵など飾られている。家具など持込の少ない方には家族に声かけを行っている。		